

教育情報誌

まなびの風



船橋市総合教育センター 〒273-0863 船橋市東町834番地 TEL 047-422-7730



学校における文化芸術鑑賞教室事業

本年度より船橋市立小中学校・特別支援学校に在籍する児童生徒に対し、質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、児童生徒に感動や生きる喜びをもたらし、豊かな想像力等を養うことを目的とした文化芸術鑑賞教室事業が始まりました。

ミュージカル 演劇 音楽（演奏） 影絵

パーカッショナ
パフォーマンス オペラ アフリカ体験学習
コンサート

*令和7年度実施例

すべての子供たちに 一生心に残る感動を
— 芸術が育てる想像力と感性 —

【体験した児童生徒の感想】

- ・終始圧巻のパフォーマンスでした。ユーモアがあり、洗練された動きの1つ1つが演奏に合わせて披露され、体感できて良かったです。（パーカッショナ パフォーマンス）
- ・アフリカのダンスや歌、楽器、そしてリズムも独特で、楽しい芸術鑑賞教室でした。牛の皮やトカゲの皮で作られた太鼓など興味深く、緑色の衣装を着た人のダンスが一番印象的でした。次の芸術鑑賞教室も楽しみです。（アフリカ体験学習コンサート）

家庭での教育やしつけのこと、子供の学校生活や家族関係のことなどの家庭教育相談を受け付けています。
○電話相談 047-436-2897（青少年課） 月曜日から金曜日 午前9時から午後4時30分まで
○面接相談 月2回実施（要予約） 公民館等で実施



船橋市の実践的な学び～体験を通して生きる力を育む～



◆【体育科】命を守る授業(着衣泳)◆

小学校高学年の授業では、泳力の向上だけでなく、安全確保につながる運動の1つとして着衣泳を取り入れている学校が多くあります。着衣での水泳指導の目的は、水の事故を未然に防ぐため、水着での泳ぎと着衣での泳ぎの違いを身をもって体験させ、そこから不慮の事故に出会ったときの落ち着いた対応の仕方を学ばせることにあります。ある小学校の実際の授業では、子供たちは事前に動画を視聴し、服を着たままで動きが制限され体力を消耗しやすいことや、服を脱ぐと体を冷やして体温を保持できなくなることを理解したうえで、Tシャツやズボン、靴を身につけたままプールに入りました。その際、ペットボトルやビニール袋に少し水を入れた補助具(=浮き)を作り、その補助具を活用して、長い間浮くこと(浮き身)の練習を行い、「浮いて待つ」ことの大切さを体験しました。

【先生からの感想】

「万が一の時には、様々な対処の仕方があることを知ることができたと思います。着衣泳を体験し、様々な気づきがあったようなので今後の生活にいかしてほしいです。」

【着衣泳を体験した児童の感想】

「服を着たまま水に入ると想像以上に重たい。」「服を着て泳ぐことは大変だった。」「服を脱ぐとともに寒かった。」「ペットボトルで簡単に浮くことができるの知らなかつた。」



服を着て水中を走る体験

浮き身の練習

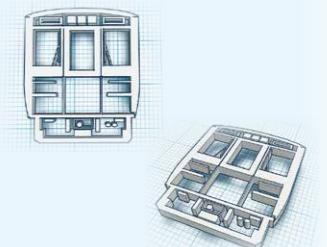
浮いて待つの実践

ペットボトルを抱えて浮く体験

◆【技術科】発想をデザインする力 —3Dプリンターの世界・キー ホルダー作り◆

船橋市では令和5年度から、すべての市立中学校26校に樹脂3Dプリンターを導入し、技術科での活用を始めています。これは文部科学省の学習指導要領と「教材整備指針」に基づいたもので、先進的な取組です。

ある中学校では、生徒が3DCAD(スリーディーキャド)でデザインした型押しキー ホルダーを3Dプリンターで出力する授業を行っています。立体物にすることで、自らのアイデアを形にできることができ、生徒からは「作業の回数を重ねると徐々にできるようになり、楽しかった。」「ものづくりには完成品から逆算して作っていくうまくいくことがわかり、『順序』が大切だとわかった。」「完成した作品を使って説明すると、気が付かなかったポイントに気づくことができ、作品への理解が深まった。次の制作に活かしたい。」といった声も上がっていました。ものづくりの楽しさを感じながら、課題を見いだし、解決策を製図等に表現するなど、工夫・創造する力を養っています。



CADで作成した
オリジナルデザイン（電車）



◆【保健体育科】つなぐ命(心肺蘇生)◆

中学校の保健分野の学習では、心停止等で人が目の前で倒れてしまった“いざという時”、自分に何ができるのかを考え、実践的に学んでいます。その中でも特に重要な「心肺蘇生の手順」と「AED(自動体外式除細動器)の使い方」について実技を通して学習し、命をつなぐ力を育んでいます。

◆心肺蘇生法の手順◆

- ①傷病者の発見
- ②周囲の安全確認
- ③意識の確認
→「あなたは119番を！あなたはAEDを！」
- ④呼吸の確認
→なければすぐに胸骨圧迫を開始
- ⑤胸骨圧迫
→胸の真ん中を1分間に約100～120回、強く、速く(5cmほど沈む力で)
- ⑥AEDを装着
→電源ON⇒指示に従う
救急隊の到着まで続ける



【体験した生徒たちの声】
「強い力が必要で、心臓を動かすのは大変そうだったが、今日体験したらできるかもしれないと思った。」「簡単にできると思ったが、違った。体力が思った以上に必要だった。」「自分が助ける立場になるかもしれないと思った。」



◆【家庭科】アイデアを形にする力 —世界に一つだけのトートバッグ◆

中学校では、家庭科の授業の一環としてものづくりに取り組み、トートバッグなど、布を使った生活を豊かにする作品の製作を通して、生徒一人一人が、自分らしさをデザインし、形にする力を養っています。

学習指導要領では、家庭科の目標である「よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成する」ことを求め、本市でも、日常生活に根ざした実践的な学習を重視しています。デザイン→準備→裁断→ミシン縫いと、複数の作業工程を自らの手で進めることで、計画性や集中力を養い、ものづくりの楽しさを実感できる学びとなっています。





第46回 船橋市小・中学校 技術・家庭科作品展



船橋市では、小学校家庭科 中学校技術・家庭科の授業で取り組んだ作品を発表する場として毎年作品展を開催しています。本年度も、11月8日（土）～11月10日（月）に総合教育センター、11日（火）～14日（金）に市庁舎1階ロビーの2会場で開催され、児童生徒だけではなく、保護者や地域の方々にも、技術・家庭科教育へ理解を深めていただき、教育活動の成果を広く紹介することができました。



今年度も、初めてミシン学習を行った5年生の作品としてランチョンマット、エプロン等や、生活を快適にするために目的に合ったふくろ製作を行った6年生の作品としてナップザックやトートバッグ等が展示されました。

中学校技術分野では、材料に適した加工方法やエネルギー変換の学習を通して本立て、筆箱、LEDスタンド等の作品が展示され、中学校家庭分野では、小学校の発展作品として生活を豊かにするトートバッグ、エコバッグ、環境に配慮した作品等が展示されました。

これらの作品は、いずれも児童・生徒が日々の学習の成果を發揮して丁寧に仕上げたもので、どれも見ごたえのある力作ぞろいでした。

全作品の中から、厳正な審査を経て、すぐれた作品に対して「特別賞」が授与されました。

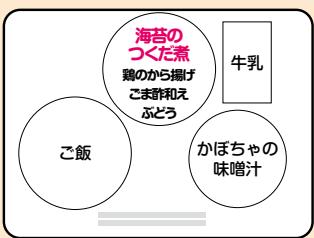


特別賞

- ・小学校 市長賞1点 市議会議長賞1点
教育長賞1点 特選2点
- ・中学校 市長賞2点 市議会議長賞2点
教育長賞2点 特選4点

わが校の給食自慢レシピ

行田中学校編



行田中学校 栄養教諭 青木 里咲

『海苔のつくだ煮』

材 料 (5人分)

乾海苔	4枚
砂糖	小さじ1 (3g)
酒	小さじ2 (10g)
みりん	小さじ2 (12g)
しょうゆ	大さじ1 (18g)
水	1/2カップ (100mL)

作り方

- ① 海苔は適当な大きさにちぎる。
- ② 鍋に海苔以外の材料をすべて入れ、①を浸す。
- ③ ②を火にかけ、かき混ぜながら煮詰める。



レシピ紹介

船橋市の特産品である三番瀬海苔をつくだ煮にしました。一般的によく食べられているのは、「焼き海苔」ですが、給食に使用するのは生海苔を乾燥させた「乾海苔」と呼ばれる海苔です。焼かずに冷凍された海苔を、給食の回転釜で煮るつくだ煮は、特に香りがよく、三番瀬海苔の特徴であるたっぷりの旨味と合わせ、本校で人気の海苔料理です。

「海苔のいい香りがして、やわらかくて、おいしかった」「ご飯との相性がよかったです」との声がありました。

地元の恵みを生かした食材を取り入れ、生徒が身近に感じたり、和食の魅力に触れたりすることができるよう献立を工夫しています。